

## 問題【国語】

問 以下の各文中には1文字ずつ間違っただけの漢字があります。正しく直しましょう。

- (1) このカメラは史上最少の大きさだ
- (2) まさに危機一発のタイミングで難を逃れた
- (3) 先生の指示を複唱する
- (4) 彼は誤ちを繰り返してしまった
- (5) ペガサスは仮空の動物だ

## 豆知識 雑学コラム

### 間違えやすい漢字

今回は間違えやすい漢字をピックアップしてみました。間違えやすい漢字にはそれぞれ間違えてしまう原因があります。その原因も踏まえてみましょう。

まずは、「最小」と「最少」のように同じ読みで二つの熟語があるパターンです。「最も小さい」ときは最小で、「最も少ない」ときは最少になると考えれば楽勝ですよね。では「しょうがく紙幣」の「しょうがく」は小さいお金で「小額」でしょうか？ 少ないお金で「少額」でしょうか？ この場合は対義語からイメージしてみましょう。「払う金額が少ない」の意味の少額の反対は「払う金額が多い」の多額です。一方で小額の対義語は高額です。多額紙幣とは言いませんが、高額紙幣とは言いますよね。その反対を表す言葉ですから「小額紙幣」が正解になります。こうやって対義語を考えながら、似た熟語を整理してみましょう。

次に、商品名や作品名に同じ読みの漢字を当てて作った表現が広く普及してしまったパターンです。もともと危機一髪とは、髪の毛一本ぐらいのわずかな差で危険なことになってしまう状況を表す言葉でした。しかし、「黒ひげ危機一発」のように髪の毛一本を表す一髪と爆弾や銃弾を表す一発をかけて、「危機一発」として使われるようになってしまいました。「黒ひげ危機一発」以外にも、例えば「花より男子（正しくは花より団子）」もそうですよね。間違っただけの漢字として覚えてしまわないように注意しましょう。

パソコンやスマホが広まって、変換機能を使う機会が増えてうろ覚えでも正しい漢字が使えるようになった一方で、いざ手書きするとなると間違えてしまうことも多くなっています。今一度、自分の漢字能力を見つめ直してみてもいいのではないでしょうか。

## 【解答】



- 詠 ← 詠 (5)
- 罨 ← 罨 (4)
- 馥 ← 馥 (3)
- 鬚 ← 鬚 (2)
- 𪔐 ← 𪔐 (1)